

令和6年度 しずおか遺産認定記念特別展

今川 文と武の 源流

第二部

駿河要衝の地
焼津

10月20日 日 ~
令和7年 2月2日 日

入館無料

焼津市歴史民俗資料館

焼津市文化センター内 〒425-0071 焼津市三ヶ名1550 054-629-6847

〔開館時間〕9時~17時 〔休館日〕月曜日（祝日の場合は開館、翌平日休館）・年末年始

いざ行かん 山西の地へ

今川

文と武の源流

第二部

駿河要衝の地 焼津

山西の地と今川氏

現在の焼津市を含む志太地域は、今川氏の拠点である駿府から見て高草山を挟んで西側に位置し、古くは「山西」と呼ばれていました。この地は、駿河と遠江の国境でもあり、駿府を守る重要な土地でもありました。このため、今川氏の歴史の節目、特に氏親、氏輝、義元、氏真の4人の当主にとつてのターニングポイントには、「山西」の地が大きく関わっています。

第二部では、今川家の家督争いや武田氏との抗争の舞台となった焼津市内の5つの城跡（小川城・石脇城・方ノ上城・花沢城・当目砦）を中心に、戦国の焼津を紹介します。

今川氏の家督争い

文明8年（1476）、今川家の当主、今川義忠が戦死したことにより、家中を二分する家督争い（文明の内訌）が起

ります。この際に、義忠の遺児龍王丸（のちの今川氏親）が匿われたのが「山西の有徳人」と呼ばれた長谷川正宣の居城「小川城」です。また、龍王丸に助力した伊勢新九郎盛時（北条早雲）が入ったのは「石脇城」でした。

天文5年（1536）には、当主今川氏輝が急死し、同日に上位継承者であった弟彦五郎も亡くなったことにより再び今川家の家督争い（花蔵の乱）が起こります。この争いの舞台のひとつになったのが「方ノ上城」でした。家督争いに勝利した梅岳承芳（今川義元）はその後、領国を拡大させ、「海道一の弓取」と称される大太名となります。

武田氏の駿河侵攻とその後

永禄3年（1560）桶狭間の戦いで、今川義元が戦死し、永禄11年（1568）、寿桂尼が亡くなると、求心力を失った今川領国内に武田氏と徳川氏が侵攻します。永禄12年（1569）、駿府を占領した武田信玄は、翌年正月、高草山を越え「花沢城」を攻め、落城させます。今川方最後の牙城といえる花沢城が

落ちたことで武田氏は駿河の大半を支配下へ置きます。その後、遠江を手中に治めた徳川家康との抗争に突入し、天正年間には「当目砦」で激しい戦いが繰り広げられていきます。



◀ 焼津市指定文化財
今川義元判物
（利右衛門自治会蔵）



静岡市指定文化財▶
武田家禁制
（安養寺蔵）

◀ 横切桶側菱綴二枚胴具足
（熊野神社蔵 / 当館寄託）

焼津市指定文化財大身槍 銘長吉作▶
（熊野神社蔵 / 当館寄託）

◇「しずおか遺産」とは

魅力ある歴史文化資源を発信するための県の認定制度です。県内の魅力ある歴史文化を県内外の多くの人々に知ってもらい、現地を訪れていたことを目指しています。令和5年度に「文武に秀でた今川一族～伝統を守る山西の地～」が認定されました。

関連講演会「今川時代の駿府と周辺の庶民文化」
日時 令和6年10月26日（土）14時～15時半
会場 焼津文化会館 会議室
講師 中村羊一郎 氏（静岡市歴史博物館名誉館長）

朗読演義「温故知新 長谷川平蔵の墓参」
日時 令和6年11月2日（土）15時～17時
会場 林叟院本堂
脚本 浅羽克典 氏
演者 佐藤剛史 氏、鈴木俊呉 氏（林叟院副住職）
※要申込（詳細はお問合せください）

焼津市歴史民俗資料館

〒425-0071 静岡県焼津市三ヶ名 1550
TEL 054-629-6847

◇JR 東海道線焼津駅下車
南口④乗り場からバスで5分
「文化センター前」下車

◇東名高速道路焼津 IC から約 10 分
無料駐車場完備



ホームページ



Instagram

